



ガラスリサイクルにおける関連の取組みについて

2022年8月10日

環境省 環境再生・資源循環局

総務課 リサイクル推進室長 水谷 努

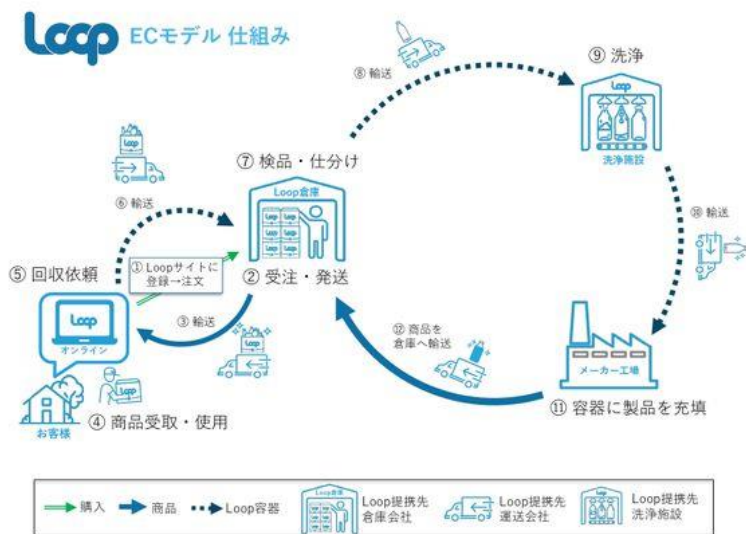


リターナブルびんのゼロ ウェイストへの貢献

● サークュラーエコノミー型ビジネスモデルの萌芽

■ Loop

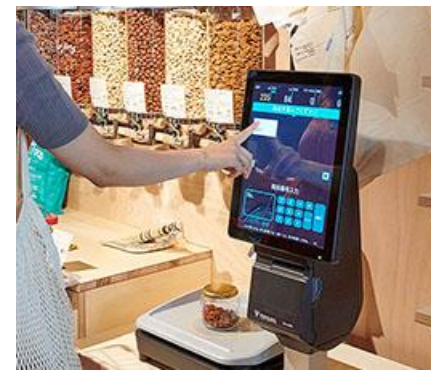
リターナブル容器を活用した
循環型ショッピングプラットフォーム



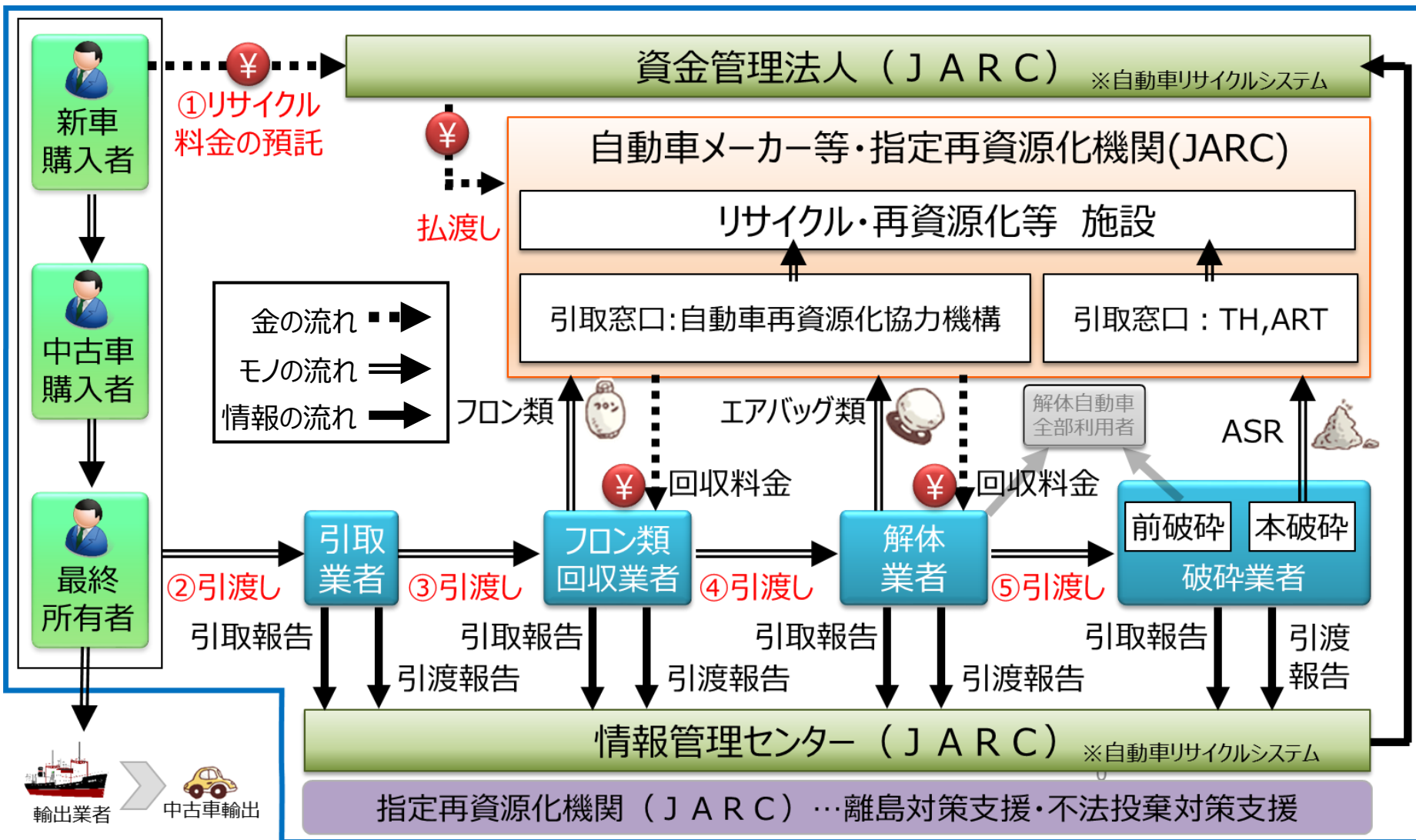
リターナブルびん容器を使用した商品例

■ 株式会社 斗々屋 京都本店

リターナブルびん活用の量り売り
ゼロウェイストスーパーマーケット

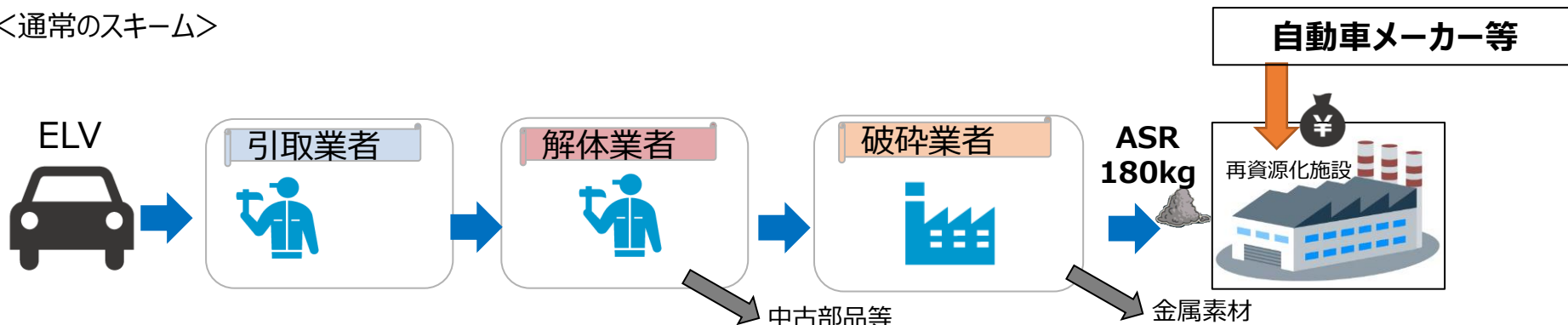


- 自動車製造業者等を含む使用済自動車のリサイクルに携わる関係者が適正な役割を担うことによって、積極的なリサイクル・適正処理を行っている。

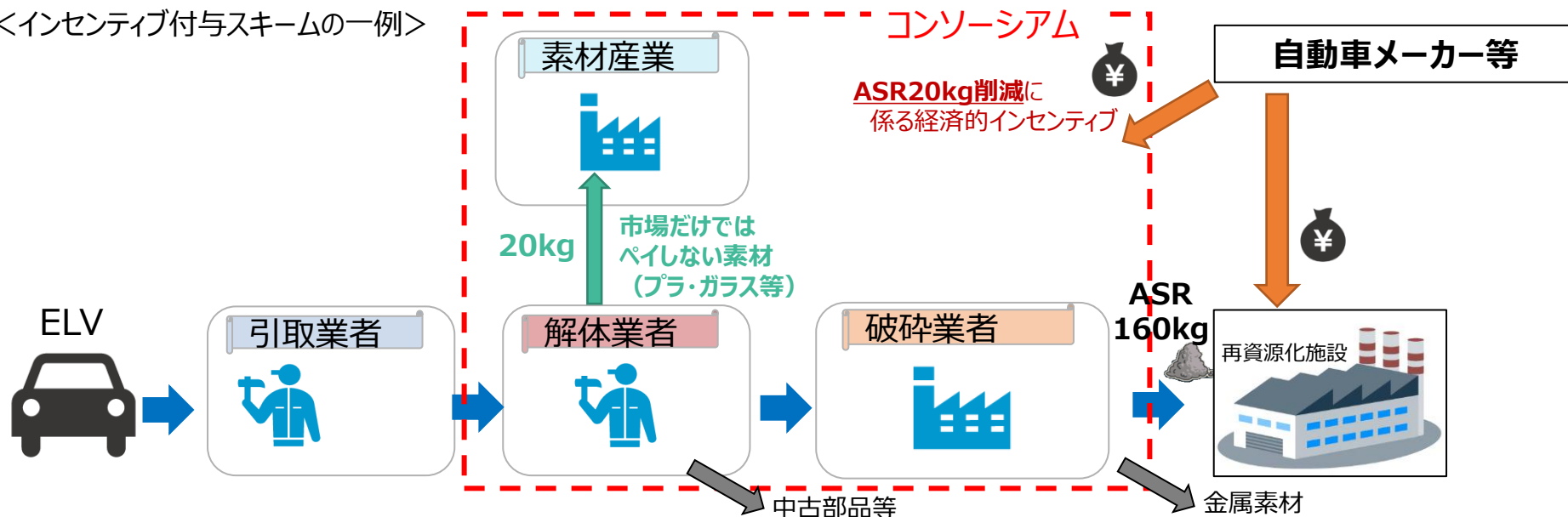


- 自動車破碎残さ（ASR）の削減及び再資源化の高度化のため、ASRのリサイクル料金を原資に、プラスチックやガラス等の素材の回収・リサイクルに取り組む解体業者等に対して、経済的なインセンティブを付与する。

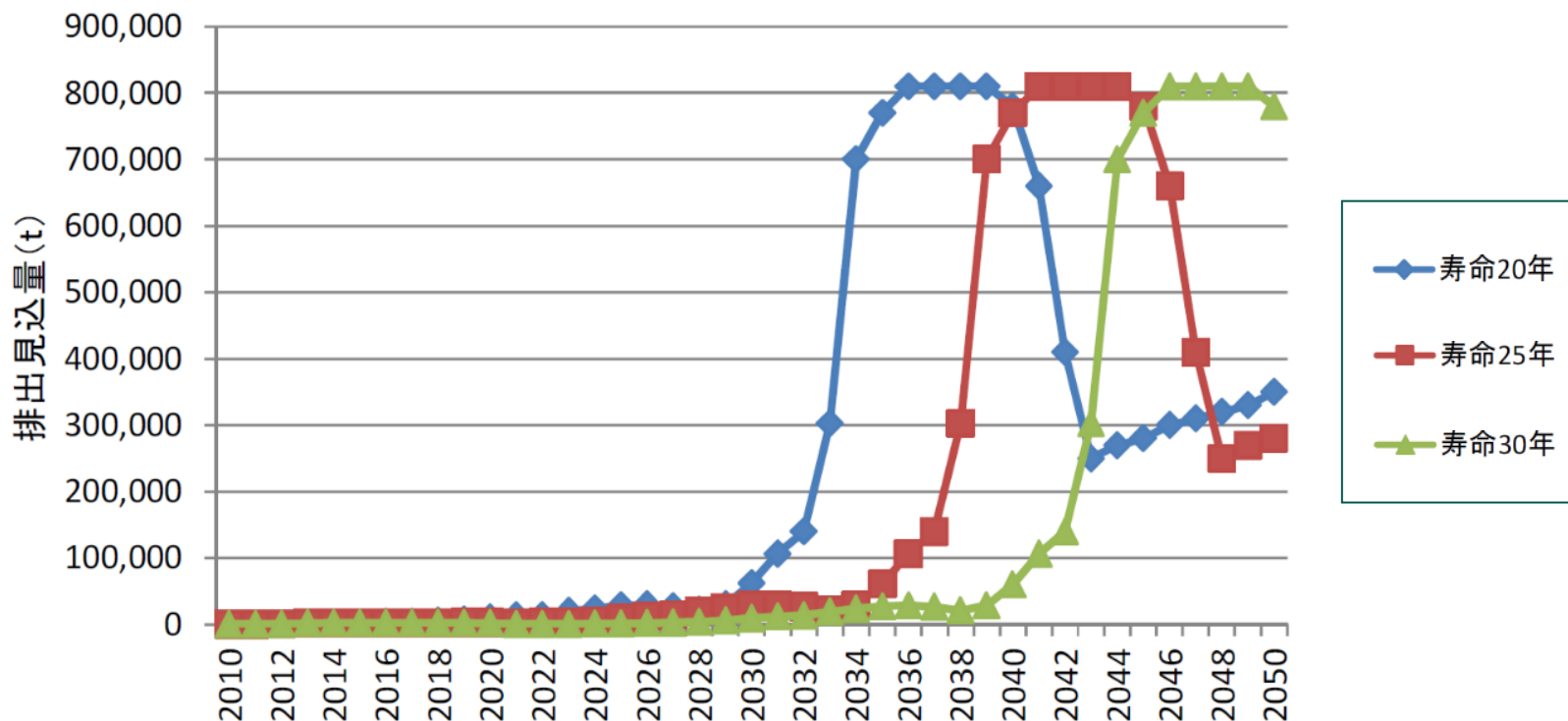
<通常のスキーム>



<インセンティブ付与スキームの一例>



- 2012年から始まった再生可能エネルギーの固定買取価格制度（FIT）により、大量導入された太陽光発電設備の排出量が、2030年代に顕著に増加すると想定されている。
- 現在排出されている使用済みの太陽光パネルの多くが、リユース可能なものであること、また銀などの有用金属を含むことから、リユース、リサイクルといった資源循環の考え方に沿った対応が重要となっている。

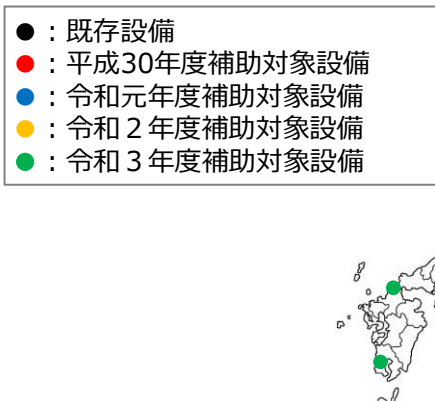


太陽光パネルの排出見込量

出所) 平成25年度使用済再生可能エネルギー設備のリユース・リサイクル促進調査委託業務 報告書(環境省)

- 環境省における「脱炭素社会構築のための資源循環高度化設備導入促進事業」の中で「省CO2型の再エネ関連製品等リサイクル高度化設備への補助」を設定し、これまで前身の補助事業も含め、年1～3件のペースで支援している（平成30年度から計8件を採択）。
- 現在の予算では2021～2023年度で民間事業者等を対象に募集予定。令和4年度予算案では50億円の内数として計上している。

＜補助実績：計8件＞



導入事例① ホットナイフによるガラス分離設備

補助年度	企業名	所在地
H30年度	平林金属株式会社	岡山県岡山市
	近畿電電輸送株式会社	京都府八幡市
	株式会社ミツバ資源	青森県十和田市
R 1 年度	株式会社青南商事	宮城県仙台市
R 2 年度	株式会社ウム・ヴェルト・ジャパン	埼玉県大里郡寄居町
R3年度	株式会社国際資源リサイクルセンター	栃木県芳賀郡芳賀町
	株式会社新菱	福岡県北九州市
	株式会社丸山喜之助商店	鹿児島県日置市



導入事例② ブラスト工法によるガラス剥離装置